

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0160590071		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	アメニティ西岡水源池 グループホーム 2階 空の虹		
所在地	札幌市豊平区西岡4条7丁目7番20号		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員がご利用者の尊厳を大切に守り、ケアを行う際は見守りと声掛けを行い自立を支援している。ご利用者が安心して生活して頂けるよう職員が日々話し合い、情報を共有し協力し合っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0160590071&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成23年7月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、全員が法人理念および事業所の理念を心におき、ご利用者の生活の支援に取り組んでいる。フロア内に理念を掲示し、また職員全員の名札の裏に理念を印刷しており、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、運動会やゴミ拾い・防災訓練等の地域行事に参加している。また、事業所での防災訓練に参加して頂き、緊急通報システムにおいて、地域の方のご協力が得られるようになった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、毎回テーマを決めて高齢者の健康管理について勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議では、ご利用者の生活状況や職員の取り組みについて報告し、会議メンバーからの質問や、出された意見をその後の活動に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、電話で問い合わせをしたり、相談をする事で市長村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する外部研修に積極的に参加し、伝達講習を行い職員への周知を図っている。職員間でも話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が周知出来るように、勉強会を複数回行い、高齢者虐待防止法への理解をより深めるよう、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度・権利擁護のセミナーに出席した職員が、他の職員へ伝達講習し、職員全員が学べる機会を持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書式や内容について、不安や疑問点等を確認したうえで、十分説明して理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアの入り口に御意見箱を設置している。職員全員が、ご利用者の言葉や態度や表情からその思いを察し、ご利用者本位の運営を心掛けている。ご家族からご意見・不満・苦情があった場合は、管理者が職員全員に伝え、情報を共有したうえで対応策を検討、解決する努力をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議・勉強会を行った際に、各職員の意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しく働きやすいと思える環境作りに努め、内・外の研修や資格取得を支援し、向上心を持って働けるように努めている。ご利用者の生活時間に合わせ、柔軟に対応できるように職員を配置している。また、その都度必要に応じて、話し合いにより勤務調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールを立てて、事業所内外での研修をなるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は、毎月の全体会議で行い、各職員のスキルアップを図っている。事業所内での研修は各職員が担当し、毎月行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での管理者会議、ケアマネ研修会に出席し、同業者との交流・情報交換に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用について相談があった場合には、ご本人に会って、心身の状態やご本人の困っている事や不安など、ご本人の思いに耳を傾け、緊張せずに話をして頂けるような工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームに見学に来て頂き、ご家族が不安に思っている事、困っている事に耳を傾け、受け止める努力をしている。ご家族がいつでも相談しやすい雰囲気作りに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い・状況等を確認し、ご家族、ご本人が安心して相談して頂けるよう信頼関係を築きながら、地域包括センター・ケアプランセンターなどにつなげられる体制作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の性格、生活習慣等を把握し、会話や行動の中からその方の思い、感情などを理解するよう努めている。協力して頂いた事に「ありがとうございます」と感謝・お礼をする事で支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や職員の考えを、ご家族にきめ細かく伝え、ご利用者の「不安」「悩み」「希望」等の思いを理解し、ケアプランに取り入れ、ご家族・職員で協力関係を築き、一緒にご本人を支えて行く関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの本屋・喫茶店等にご家族と一緒に行かれているご利用者には、出来るだけ続けて頂けるように、ケアプランに取り入れて働きかけている。また、入居前の住居で、近所づきあいをしていた方に、ご家族の意向を確認したうえで、電話の取りつき等を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の仲の善し悪しに配慮し、座席配置を行ったり、会話や活動の際には職員が間に入り、ご利用者同士がより良くコミュニケーションが図れるよう観察、声掛け等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の退去、入院の為利用がなくなっても、ご家族からの相談に対応できる体制を整え、ご家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からご利用者の思い等に耳を傾け、対応をしている。思いを伝える事が困難な方には表情やしぐさ、発言等から把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族の方にどのような生活だったのか伺い、基本情報シートを作成している。一人ひとりに合ったケアにつなげられるよう職員同士も情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員がご利用者の生活リズムを理解し、心身の状態や毎日の状況を記録し確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の思いや、現状を把握し、ケアプランに反映させている。ケアプラン作成には、日々の業務の中で職員の意見をとり入れ、ご家族の意向も確認している。また、期間終了前と状態変化時にはプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の生活状況やケアプランの実践、結果等を個別に記録している。職員全員で情報を共有し、ご利用者の状況変化などに対応できるよう、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医との連携のもと、体調に異変があれば迅速に受診が出来るように体制を整えている。また、状況に応じて入院への支援を行い、ご家族との連絡体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪・読み聞かせ・歌・演劇等のボランティアを活用し、ご利用者に楽しんで頂いている。また、防災訓練を行い、緊急時の対応に、警察・消防、近隣住民の協力も得られる体制を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向により、定期的な訪問診療や受診、通院が出来るよう支援している。ご家族の同行が不可能な場合には職員が同行するなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、ご利用者の健康状態の把握に努め状態に変化があれば、夜間でもすぐに対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人への支援方法に関する必要な情報を医療機関に提供している。また、入院中のご本人を見舞い、ご家族とも情報交換・相談しながら、回復状況を医師に確認し、早期に退院できるようにアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を重視し、職員・医師などと話し合い確認するように努めている。全員で方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急の講習を受講している。また、夜勤時の緊急時対応や急変時・事故発生時に備えて、マニュアルを作成し定期的に勉強会を行い周知徹底を図っている。些細な変化でも日々の申し送りをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難路の確保・整備点検を、防災係りが中心となり定期的に行っている。ホーム内のカーテン・のれんはすべて防災加工されている。マニュアルを作成し、職員は年2回の避難訓練を行い、年1回は消防署の立会いで実施している。その際、地域の方々にも参加して頂き、運営推進会議において緊急時の地域の協力もお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の「尊厳」の徹底・接遇教育を実施している。接遇係が中心となり、接遇年間目標や3カ月ごとの標語のポスターを掲示し職員の意識向上を図ると共に、ご利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。個人情報取り扱いにも注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人一人にあった言葉かけや、意思を引き出し、ご本人のご希望に応えられるよう支援している。意思表示能力が低下している方には、しぐさなどを読み取り、出来る限りご本人の希望、意思にあった声かけ・支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	疲れている様子がある時等は、食事の時間をずらして臥床時間を増やしたり、居室で食事を摂って頂いている。外に出かけたいと言われたら一緒に散歩に出かけている。その方その方のペースに配慮し、過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理容・美容を利用しているが、馴染みの理容・美容室がある場合は、ご家族と一緒に行って頂いている。身だしなみに、エプロンで装い口紅を付ける方もいて、その人らしい服装、おしゃれをして過ごして頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・片付けをご利用者と一緒に行っている。料理の好きな方には味付け等もやって頂いている。ご利用者と同じ食事をとり、一緒に食卓について食べる事で、楽しい雰囲気作りを心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個々の咀嚼や嚥下の状況に応じて、調理・食事の形態・配膳のタイミングなど工夫し無理せず摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・見守り・介助にて口腔ケアを行っている。夕食後は義歯を預かり、ポリドントで消毒・洗浄をしている。ご自分で磨けない方、磨き残りの方には、歯間ブラシ・舌ブラシを使用して口腔清掃をする。訪問歯科の診察を定期に受け、アドバイス・指示を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの時間を見計らって誘導したり、行動でのサイン等を察知し介助することによってトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトや牛乳を飲んで頂いている。排便を促すために腹部マッサージ・腹圧運動・歩行運動を行っている。水分量を把握し、不足気味の方には時間を置いてから声かけ等を行い、水分摂取して頂いている。食事メニューに繊維質の多い食材をとり入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の設定はしているが、ご利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。また、年間行事に合わせて入浴剤を使用し、楽しく入浴出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めているが、その日の体調や出来事(外出・入浴等)を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	散剤でむせ込む・錠剤を吐き出す・服薬拒否などご利用者の状況を把握し、確実に服薬して頂けるように、散剤にする・ヨーグルトやゼリーに混ぜる等し、医師の指示通りの服薬が出来る様支援している。服薬情報を介護記録に保管し、臨時薬等があった場合には、必ず申し送り、用法・用量・副作用についての情報も職員間で周知徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや片付け等のお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしている。四季の行事やレクリエーションを楽しみ、気晴らしできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望に応じて、日常的に散歩を行っている。また、外食や買い物にも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方にはご自分で管理していただき、買い物や通院等の外出時に自分で払っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば応じている。電話は居室でも使用でき、周りに気兼ねなく話す事が可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生ごみや排泄物などの不快な匂い、食器を片づける際の物音には細心の注意を払っている。季節ごとにディスプレイをし季節感を味わって頂けるよう心がけている。季節に合わせた行事では、その行事にあった音楽等をたのしんでいただいたり、行事毎に写真を撮り廊下に掲載してご利用者に楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間・ホールにソファーやベンチを置き、ご利用者が自由に座って休んだり、他者とお話できるような工夫をしている。他者との関係性にストレスを感じているような、しぐさや表情を読み取り、一人になれる時間をもつていただけるよう配慮している。ご利用者は好きな場所で昼寝をしたり、くつろいでいられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や調度品を置き、ご利用者が心地よく過ごして頂けるような工夫をしている。ご自分が作られた趣味の品等を壁や家具に飾られている方もいる。テレビ・ラジオ・仏壇等を置かれ心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに貼り紙をして、排便の報告をして頂いたり、物の区別が出来るようにシールを張って確認できるようにし、失敗を防ぐような工夫をしている。出来る事には必要以上に手を貸さず、介助が必要な方でもわかる事・出来る事を見つけ、職員間で話し合い、混乱や失敗を防ぎ安心して生活できる環境づくりに努めている。		